

令和4年度 地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

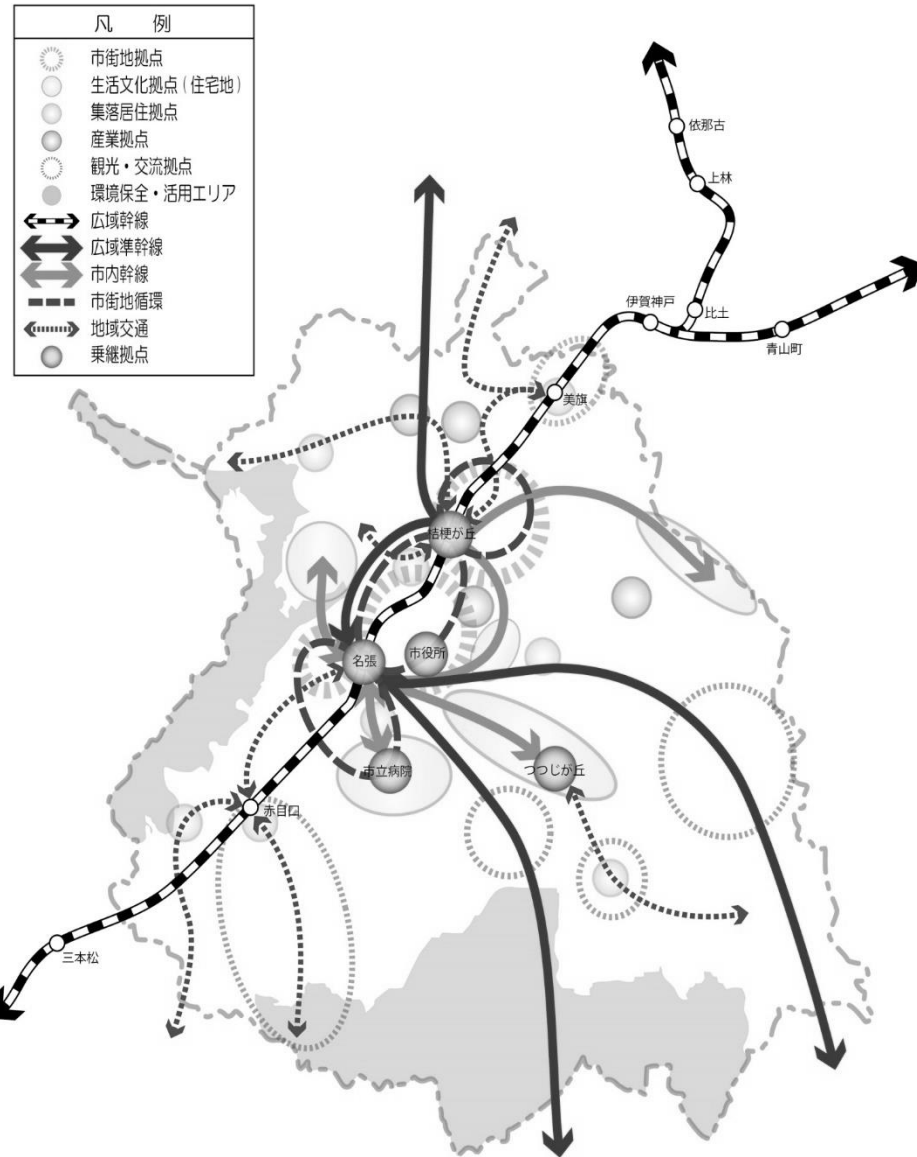
名張市地域公共交通会議 （名張市）

平成27年 8月20日 設置

平成29年 2月16日 名張市地域公共交通網形成計画策定
（計画期間：平成29年2月～令和5年3月）

令和5年 1月20日 令和4年度評価結果送付

公共交通ネットワーク形成のイメージ



○名張市の概要

- ・面積：約130km²
- ・人口：76,255人（2022.12現在）
- ・公共交通：鉄道（近鉄大阪線、市内4駅）
路線バス（三重交通）
コミュニティバス（6路線）
タクシー（3事業者）

○名張市地域公共交通網形成計画

（2016年度～2022年度）

公共交通のビジョン



「ひとが交わり、こころが通う、みらいにつなぐ絆のまち なばり」

基本方針


1. 鉄道及びバス交通等が一体となった移動しやすい**公共交通ネットワークの形成**
2. 集約連携型のまちづくりと連携し、鉄道駅、主要バス停における**交通結節機能の強化**
3. 誰もが安全で安心して利用できる、**人によさしい公共交通環境の整備**
4. 地域住民の生活行動パターンに応じた持続可能な公共交通サービスの**関係者の協働による確保・維持**

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 (1/2)

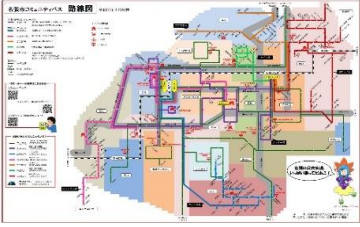


基本方針1.2の主な具体的取組「地域コミュニティバスの再編」

名称・概要	成果・考察	
<p>コミュニティバス「はたっこ号」新系統運行開始 近隣地域から乗り入れの要望に対応</p>	<p>8便のうち4便を駅発着の新系統に活用、実証運行を経て本格運行を開始し、翌年の利用者4,888人→8,087人に増加 利用者が少ない4便を活用し、その中でも利用の多い停留所はルートを重複させたため利用者の増加につながった</p>	
<p>自家用有償運送「あららぎ号」再編 新規停留所設置の要望があり、利便性の向上と効率的な運行の両立を目指す</p>	<p>地域や運転手と協議を重ね一部を予約便化、フリー乗降、減便、新規停留所設置し、翌年の利用者1,977人→2,147人に増加、運行経費は削減 予約便の稼働率50%程度、距離は延長したが経費削減できた</p>	


基本方針3の主な具体的取組「公共交通の情報発信」

名称・概要	成果・考察	
<p>「公共交通見える化プロジェクト」 路線バスやコミュニティバス、鉄道の乗継がインターネットで検索可能に</p>	<p>コミュニティバスのGTFS-JPを整備し、経路検索サイト3者、Googleマップで検索可能になった 県外からの観光利用につながった</p>	

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 (2/2)

名称・概要	成果・考察	
<p>市内コミュニティバス路線図 鉄道、路線バス、コミュニ ティバスが一括して掲載され ている路線図を作成</p>	<p>主要バス停3か所に掲示 ホームページ上で公開</p>	
<p>行き先別時刻表の作成、配布 利用の多い市内6か所の停留所 に向かう複数のバスの時刻一 覧を作成</p>	<p>6か所の停留所で掲示又は配布 ホームページ公開時はアクセスランキ ング上位を獲得</p>	
<p>YouTubeでコミュニティバス紹 介動画を公開 コミュニティバス「ナッキー 号」の車窓からの映像や停留 所近くの施設を紹介した動画 をYouTubeで公開</p>	<p>総再生回数は約2,000回 広報にQRコードを掲載するなど見て もらえるようにPRを行った</p>	

基本方針4の主な具体的取組「名張市地域公共交通連携協議会」の開催

名称・概要	成果・考察	
<p>名張市地域公共交通連携協議 会の開催 地域、交通事業者、行政が連 携について協議する場を設置 (法定協議会とは別)</p>	<p>年約3回開催 事業評価、相互の連携等について協議を 行った 定期的な開催により地域間、交通事業者 間のコミュニケーションの場にもなった</p>	

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察 (1/3)

目標	評価指標	目標値 (2022)	実績値 (2021)	達成状況
1-1 公共交通軸の形成	広域幹線の定期外利用者数	122.5万人以上	63.3万人	未達成
	広域準幹線・市内幹線の年間利用者数	広域準幹線 23.3万人以上	広域準幹線 15.0万人	未達成
		市内幹線 234.9万人以上	市内幹線 180.4万人	未達成
1-2 市街地循環：生活利便性を確保	市街地循環型コミュニティバスナンバーの年間利用者数	4.4万人以上	3.7万人	未達成
1-3 地域交通：乗継拠点までのアクセス利便性を確保	地域交通の年間利用者数	2.5万人以上	1.1万人	未達成
1-4 公共交通相互の乗り継ぎ利便性の向上	乗り継ぎに関する評価 (バス利用者「満足、やや満足、ふつう」と答えた者の割合)	待ち時間 53.9%以上	待ち時間 58.8%	達成
		情報や案内 75.8%以上	情報や案内 75.0%	未達成
目標	評価指標	目標値 (2022)	実績値 (2021)	達成状況
2 乗継機能を強化	バス停の乗降客数 (路線バス) (人/日)	名張駅バス停 4,617人/日	名張駅バス停 3,372人/日	未達成
		桔梗が丘駅バス停 711人/日	桔梗が丘駅バス停 502人/日	未達成

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察 (2/3)

目標	評価指標	目標値 (2022)	実績値 (2021)	達成状況
3-1 安全で安心して利用できる環境の整備	公共交通の評価 (市民アンケート「満足、やや満足、ふつう」と答えた人の割合)	鉄道 79.5%以上	鉄道 85.1%	達成
		路線バス 63.1%以上	路線バス 69.2%	達成
		ナッキー号 61.4%以上	ナッキー号 72.8%	達成
		地域コミュニティバス 71.8%以上	地域コミュニティバス 60.0%	未達成
3-2 バスに関する認知度を向上	バスに関する認知度 (市民アンケート「知っている」と答えた者の割合)	自宅近くのバス停の位置 75.9%以上	自宅近くのバス停の位置 75.7%	未達成
		自宅近くを走るバスのダイヤ 23.2%以上	自宅近くを走るバスのダイヤ 19.0%	未達成
		自宅近くを走るバスで行ける施設 34.3%以上	自宅近くを走るバスで行ける施設 26.9%	未達成
目標	評価指標	目標値 (2022)	実績値 (2021)	達成状況
4 協働で公共交通を確保・維持	住民・地域、交通事業者、名張市が協力した取組	5件以上 (延べ値)	14件 (延べ値)	達成

目標	評価指標	目標値 (2022)	実績値 (2021)	達成状況
計画全体の目標	市内の交通環境に対する満足度割合 (市民意識調査「十分満足、一応満足」と答えた者の割合)	40.0%以上	42.9%	達成
	公共交通の利用機会 (公共交通を利用したお出かけを月に数回以上する人の割合)	平日 37.6%以上	平日 31.8%	未達成
		休日 26.1%以上	休日 24.2%	未達成



○目標達成状況の考察

1. 広域幹線、広域準幹線、市内幹線は利用者数が漸減していた中、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。コミュニティバスは全体で見ると増加傾向にあった中、2018年の駅前の商業施設の閉店や2020年の新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少している。地域への聞き取りでは、バス停まで到達できない人が増えているため、利用者が減っている状況もある。
また、乗り継ぎに関する評価は、乗継を考慮したダイヤの変更、乗継情報の発信等を行い、目標値をおおむね達成している。
2. 外出自粛や駅前の商業施設閉店の影響により待合場所が減ったこともあり、乗継拠点の乗降客数は減少している。
3. 満足度は上昇しているものが多い一方で公共交通 (バス) に関する認知度は下降しているため、公共交通に対する関心が薄れ、限られた人のための移動手段になっていると考えられる。
4. 地域・交通事業者・市等で構成される連携協議会の開催により、コミュニティバス相互の連携、事業の評価、情報共有を定期的に行うことができた。

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

○課題の整理

- ・高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響で利用者の減少が続く中、**持続可能な公共交通**に向けた見直しが必要。
- ・公共交通の集約拠点となる名張駅・桔梗が丘駅の**乗継・待合環境の改善**が必要。
- ・バス停まで到達することが難しい人が増加している中、**多様な移動手段と連携**し、**関係団体と協働**することが必要。
- ・公共交通を知ってもらい、愛着を持ち、利用してもらうためのきっかけづくりが必要。



○名張市地域公共交通計画（案）

（2023年度～2028年度）

公共交通のめざす姿

「ひとが交わり、こころが通う、みんなで未来へつなぐ地域公共交通ネットワーク」

基本方針

1. 集約連携型のまちづくりと連携し、ひとが交わり地域を支える地域公共交通ネットワークづくり
2. 誰もが分かりやすく安心して利用できる、こころが通う、人にやさしい公共交通環境づくり
3. みんなで考え、一緒に支える未来へつなぐ仕組みづくり



○実施予定施策（抜粋）

- ・利用者の減少している広域準幹線の生活及び観光利用等の促進
- ・乗継利便性の確保に留意したダイヤ設定（市街地循環と地域交通の乗り換え）
- ・コミュニティバスの施設等への乗り入れ強化、待合場所の確保
- ・観光、健康福祉等多様な分野と連携した取組で新規利用者獲得
- ・お絵かきバスやバスの乗り方教室等のイベントを実施しバスへの**親近感や愛着**を醸成
- ・地域コミュニティ交通推進方針や補助金制度を見直し、現在および将来の交通体系に即した仕組みを再構築



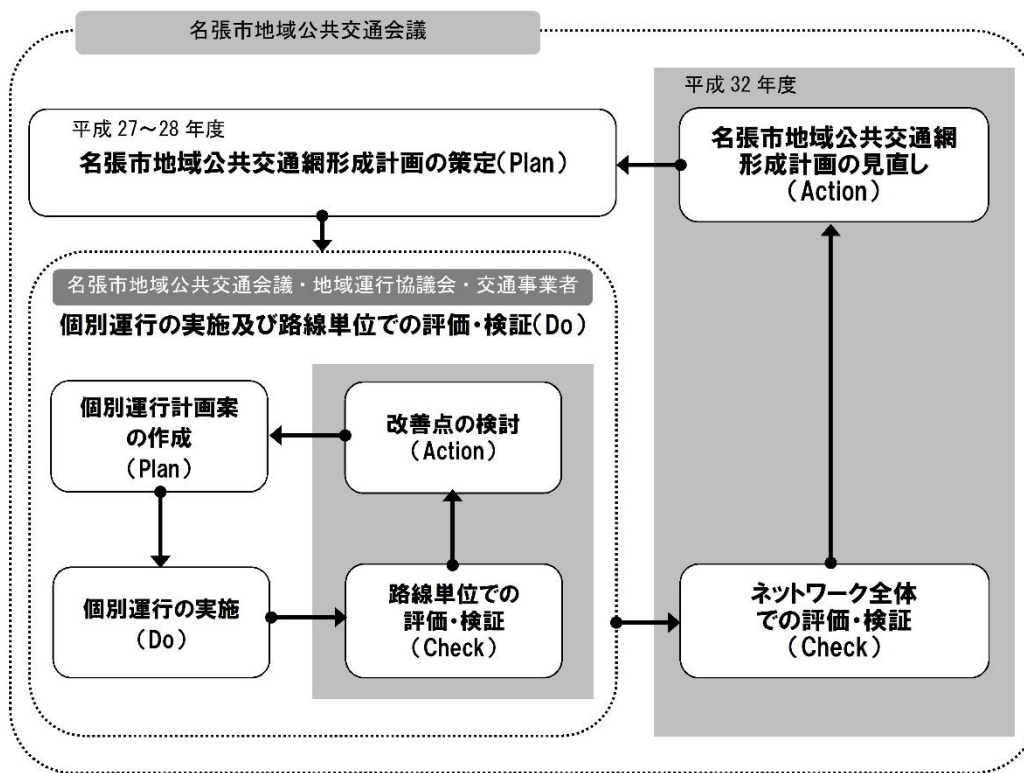
ギャラリーバス

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> 調査事業については、計画どおりに実施されていることが確認できました。 	市民アンケート、利用者アンケートをもとに、分析や現計画（網形成計画）との比較を行い、次期計画（公共交通計画）に反映した。	次期計画の期間中も調査結果を参考にしながら事業の検討を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。 	次期計画の本文中に輸送量が低迷する地域間幹線の利用促進について明記し関係機関と連携し、取組を検討することとした。	地域間幹線の利用者数を注視し、効果的な利用促進方法について検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待します。 	次期計画の中で、みんなで考え、一緒に支える方針のもと、持続可能な公共交通について記載した。	次期計画の中で持続可能な公共交通の仕組みづくりや多様な移動手段との連携等に取り組んでいく予定である。

※前回：令和4年3月10日

前々回：なし

【P D C A 推進体制】



○協議会の実施状況（直近1年間）

(2021年度)

第2回会議 2022.1（書面） 主な議題：公共交通計画（素案）について

第3回会議 2022.3.15 主な議題：公共交通計画（素案）について

(2022年度)

第1回連携協議会 2022.6.23 主な議題：令和3年度事業評価について

第1回事業推進部会 2022.6.29 主な議題：公共交通計画（素案）の検討について

第1回会議 2022.7.28 主な議題：公共交通計画（素案）について

第2回会議 2022.11（書面） 主な議題：公共交通計画（素案）にかかるパブコメの実施について

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

名張市地域網形成計画の評価等結果（令和3年4月～令和4年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
広域幹線・広域準幹線・市内幹線の利用者数の増加： 広域幹線（鉄道）の年間利用者（H26 122.5万人→112.5万人以上）	都市圏や伊賀地方への運行を維持し市内及び広域の移動に対する需要に応じたサービスを提供する	事業者提供	広域幹線：63.3万人（R4.3月末） 人口動向や人口流動をみると、通学通勤者の16～65歳の人口が減少しており、通勤流動をみても主たる移動先が大阪市から伊賀市に代わっている。更に新型コロナウイルス感染症の影響により大きく下回っている。	未達成 人口減少等に加え新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式が変わり、通勤や通院、買い物利用のための鉄道利用者が減少したと考えられる。新型コロナウイルスの影響による移動制限の緩和に期待もあるが、利用者減少により運行本数が減便することにならないよう事業者働きかけながら、バス等の市内交通との連携に取り組むとともに、生活及び観光利用等の促進を図る。	
広域幹線・広域準幹線・市内幹線の利用者数の増加： 広域準幹線（路線バス）の年間利用者（H28 23.3万人→23.3万人以上）	広域幹線と連携するとともに乗継拠点と周辺都市を連絡する	事業者提供	広域準幹線：15.0万人（R4.3月末） 新型コロナウイルスの影響や駅前駐車料金の値下げなどが影響しマイカー通勤へシフトしていることが考えられる。	未達成 輸送量が低迷する地域間幹線については、県など関係団体と連携し利用促進や系統維持に向けた取組を継続する。	
広域幹線・広域準幹線・市内幹線の利用者数の増加： 市内幹線（路線バス）の年間利用者（H28 234.9万人→234.9万人以上）	乗継拠点及び市内拠点の相互連絡	事業者提供	市内幹線：180.4万人（R4.3月末） 新型コロナウイルス感染症の影響による出控えに加え、駅前駐車料金の値下げなどが影響していると考えられる。	未達成 利用しやすさの向上等による通勤利用の促進を図りつつ、利用者の減少が路線廃止に繋がらないよう、事業者と協働した利用促進を継続する。	
市街地循環の利用者数の増加： 市街地循環（ナッキー号）の年間利用者（H26 4.2万人→4.4万人以上）	乗継拠点と周辺施設を連絡乗継利便性の確保に留意したダイヤの設定	事業者提供	ナッキー号：3.7万人（R4.3月末） 利用者は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度の利用者は3.6万人まで減少したが回復傾向にある。	未達成 店舗施設への乗り入れや、待合場所の確保など引き続き利便性向上に取り組む。	
地域交通の利用者数の増加： 地域コミュニティバスの年間利用者（H26 2.1万人→2.5万人以上）	コミュニティバスの再編、地域ニーズに応じた移動手段の確保 市街地循環との乗継利便性の確保	事業者提供	地域コミバス：1.1万人（R4.3月末） コロナ禍においてコミュニティバスの利用者数は減少を続けており、予定していた赤目地域へのコミュニティバス導入が別の移動サービス開始により利用者数が見込めなくなったため、目標値を大きく割り込んでいる。	未達成 多様な移動手段と連携し、関係団体と協働し、相互補完を含め持続可能な公共交通の仕組みを構築する。	

<p>公共交通の乗り継ぎに関する評価 (バスサービスに対する満足度割合)： 乗継待ち時間 (H26 53.9%→53.9%) 乗継情報 (H26 75.8%→75.8%以上)</p>	<p>分かりやすい情報の提供 乗継への配慮 市街地循環から地域交通への乗継に配慮したダイヤ設定など</p>	<p>バス利用者アンケート</p>	<p>乗継待ち時間：58.8% 乗継情報等：75.0% (R3.10月) 乗継情報の発信などを行い、目標値を概ね達成している。</p>	<p>乗継待ち時間：達成 乗継情報等：未達成 引き続き、わかりやすい情報発信に努め、交通結節点における乗継環境の改善等、乗り継ぎに係る不安や不満の解消に努める。(行き先別時刻表やバスマップ、わかりやすいダイヤの表示など)</p>	
<p>名張駅バス停及び桔梗が丘駅バス停における乗降客数の増加 (人/日)： 名張駅バス停 (H26 4,617人→4,617人以上) 桔梗が丘駅バス停 (H26 711人→711人以上)</p>	<p>待合場の整備や周辺などにより乗継機能の強化を図る</p>	<p>事業者提供</p>	<p>名張駅：3,372人 桔梗が丘駅：502人 (R3.10月) 新型コロナウイルス感染症の影響による。名張駅は令和3年度以降回復傾向にある。桔梗が丘駅は駅前商業施設の閉店による影響がある。</p>	<p>名張駅：未達成 桔梗が丘駅：未達成 まちづくり施策や都市計画と連携し集約拠点としての機能を改善する必要がある。また、バス停のベンチ設置や案内表示など利用しやすい環境の整備に取り組む。</p>	
<p>公共交通に対する評価：(各公共交通に対する満足度割合) 鉄道 (H27 79.5%→79.5%以上) 路線バス (H27 63.1%→63.1%以上) ナッキー号 (H27 61.4%→61.4%以上) 地域コミバス (H27 71.8%→71.8%以上)</p>	<p>誰もが安心して利用できる交通環境の整備。(ノンステップバスの導入や地域住民による活動の実施等)</p>	<p>市民アンケート</p>	<p>鉄道：85.1% 路線バス：69.2% ナッキー号：72.8% 地域コミバス：60.0% (R3.8月) 概ね達成したが、利用者が限定されていることが想定される。</p>	<p>地域コミバスのみ未達成 引き続き、免許返納者に対する施策や地域住民による取組を実施するなど、安心・安全な公共交通利用に向けた取組を実施する。地域コミュニティバスについては、デマンド運行など地域特性に合わせた取組を検討していく必要がある。</p>	
<p>バスに関する認知度の向上： 自宅近くのバス停 (H27 75.9%→75.9%以上) バスのダイヤ (H27 23.2%→23.2%以上) バスで行ける施設 (H27 34.3%→34.3%以上)</p>	<p>情報発信や利用促進、バスへの愛着を高める施策の実施(お絵かきバスやバスの乗り方教室等)</p>	<p>市民アンケート</p>	<p>自宅近くのバス停：75.7% バスのダイヤ：19% バスで行ける施設：26.9% (R3.8月) 限られた人のための移動手段になっていることが考えられる。</p>	<p>未達成 引き続ききめ細やかな情報提供を行う。 (乗換案内サイトへの掲載や行き先別時刻表、バスマップ、わかりやすいダイヤの表示など)</p>	
<p>住民・地域、交通事業者、名張市が協力した取り組みの有無： 目標値5件以上 (計画期間中の延べ値)</p>	<p>持続可能な公共交通の維持に向けた三位一体の取り組み</p>	<p>実績数</p>	<p>14件(計画期間中の延べ値) 地域間の情報共有や連携を図るため、地域連携協議会を開催した。</p>	<p>達成 産学官民連携による共同研究の実施や、交通事業者、健康福祉、商業・観光団体、企業等の機関が協議する場を設ける。</p>	
<p>市内の交通環境に対する満足度割合の増加： 満足度割合 (H27 37.6%→40.0%以上)</p>		<p>市民意識調査</p>	<p>満足度割合：42.9% (R3.5月) 平成28年度から徐々に増加している。</p>	<p>達成 引き続きPDCAサイクルを実行することにより、事業効果や目標達成状況を評価・検証し、次年度以降の施策を展開し、より良い交通環境の構築に努める。</p>	
<p>公共交通の利用機会の増加： 月数回以上の人の割合 (H27 平日34.2%休日23.8% →平日37.6%以上休日26.1%以上)</p>	<p>計画全体の目標値として定める</p>	<p>市民アンケート</p>	<p>公共交通の利用機会：平日31.8%休日24.2%(R3.8月) 平日休日共に、外出時の交通手段は自動車利用が最も多い。</p>	<p>未達成 依然、自動車への依存が高まっており、公共交通に対する関心が薄れてきている。日常生活における移動手段の利便性の向上と、交通手段の適切な組合せによる交通体系の構築に向け、多様な主体との協働による交通まちづくりに取り組む。</p>	